

2023年度 学修成果達成度調査 看護学部 結果報告

2023年9月7日 看護学部教授会資料

IR室

看護学部 片田 千尋

医学部（医療統計学） 高橋 佳苗

ディプロマポリシーを基準にした学修成果達成度の調査について

【目的】 ディプロマポリシー(DP)は、学生が卒業時点で獲得すべき事項であるが、本学では途中段階における修得状況の把握ができていなかった。そのため、今年度より、各学年の達成度調査を行うことで、学生の学修の達成状況を把握するとともに、今後のカリキュラム作成等の教育に活用するために実施した。[本調査の教育活用は、私立大学等改革総合支援事業タイプ1の申請要件]

【方法】 Google form を用いた記名式アンケート調査

【期間】 2023年7月28日～8月13日（うち、期間延長：8月5日～13日）
[リマインド：8月1日, 3日, 5日, 8日に非回答者のみにメールにて実施]

【回収率】 1年：99.2%（123/124名中*） *2023年度前期在学期生のみ（休学除く）
2年：98.1%（106/108名中*）
3年：97.3%（109/112名中*）
4年：99.0%（101/102名中*）

【解析】 各学年におけるアンケート回答結果を記述した。また、2～4年生については、アンケートの回答ごとの前年度F-strickt累積GPAとの関連をRを用いて分析した。

看護学部 ディプロマポリシー

- DP1 人間および生命の尊厳に対して、真摯に向き合うことができている **〔人間の尊厳〕**
- DP2 地域社会から国際社会に至る、多様な文化を持つ人々の生き方や価値観を尊重できる豊かな人間性を備えている **〔豊かな人間性〕**
- DP3 看護に必要な専門的知識および論理的思考を身につけている **〔知識と論理的思考〕**
- DP4 看護を提供するための問題解決に向けての方略を選択し、実践することができる **〔看護実践〕**
- DP5 看護の基本技術を的確に実施することができる **〔看護技術〕**
- DP6 コミュニケーション技法を用いて、対象者と信頼関係を築くことができる **〔対象者との信頼関係〕**
- DP7 医療・保健・福祉のチームにおける各専門職種の専門性および役割を理解することができる **〔チームにおける専門性の理解〕**
- DP8 医療チームの中で他職種と有効かつ協力的にコミュニケーションをとり、専門職としての責任ある行動をすることができる **〔専門職としての責任〕**
- DP9 地域的・国際的動向に関心を持ち、それぞれの地域や国の文化を通して、医療・保健・福祉の課題と看護職者の役割を展望することができる **〔国際社会における看護の役割〕**
- DP10 自己の知識・行動・態度の客観的な評価に基づき、課題を見出し、主体的・創造的に取り組むことができる **〔自己研鑽〕**

看護学部 学修成果達成度 リフレクション用ルーブリック

	レベル0	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4 (DP：学位授与の方針)
DP1	人間の存在と生命の尊厳について深く理解し、生命と人権を尊重する態度を身につけていない	人間の存在と生命の尊厳について深く理解し、生命と人権を尊重する態度を身につけている	看護の対象となる人と健康を包括的に捉えることができている。また、看護の対象となる人の尊厳と権利の擁護について理解できている	看護の対象となる人の尊厳を守り、対象の状況に応じた権利の擁護について理解できている	人間および生命の尊厳に対して真摯に向き合うことができている
DP2	多様な文化を持ち生活する人々に関心を寄せ、生き方や価値観を知ろうとする姿勢を身につけていない	多様な文化を持ち生活する人々に関心を寄せ、生き方や価値観を知ろうとする姿勢を身につけている	多様な文化を持ち生活する人々の生き方や価値観を理解できている	多様な文化を持ち生活する人々の生き方や価値観を理解し、尊重する姿勢を身につけている	地域社会から国際社会に至る多様な文化を持つ人々の生き方や価値観を尊重できる豊かな人間性を備えている
DP3	看護に関心をもち、主体的に学ぶ姿勢（能力）を身につけていない	看護に関心をもち、主体的に学ぶ姿勢（能力）を身につけている	看護を提供するうえで必要な専門的知識および論理的思考を身につけている	看護を提供するうえで必要な専門的知識および論理的思考を身につけ実践に活かすことができている	看護に必要な専門的知識および論理的思考を身につけている
DP4	看護上の問題を解決していく基礎的なプロセスを理解できていない	看護上の問題を解決していく基礎的なプロセスを理解できている	看護に必要な専門的知識を用い、論理的思考に基づき、問題解決の方略を検討することができる	看護に必要な専門的知識を用い、論理的思考に基づき、対象者の状況に応じた適切な問題解決の方略に取り組むことができる	看護を提供するための問題解決に向けての方略を選択し実践できている
DP5	さまざまな健康段階にある対象の最適な健康状態を達成するための基本的な看護技術を身につけていない	さまざまな健康段階にある対象の最適な健康状態を達成するための基本的な看護技術を身につけている	看護技術の実践に関連する基礎的知識と実践の根拠を理解し、安全で確実な技術を身につけている	看護の対象者の状況に応じた基本技術を、的確に実施できている	看護の基本技術を的確に実施できている
DP6	医療専門職種に必要なコミュニケーションに関する知識、技能、態度の基本を身につけていない	医療専門職種に必要なコミュニケーションに関する知識、技能、態度の基本を身につけている	多様な価値観、倫理観を尊重し、対象者の状況に応じたコミュニケーション技法を用いて対象者との信頼関係の構築に取り組むことができる	多様な価値観、倫理観を尊重し、対象者の状況に応じたコミュニケーション技法を用いて対象者と信頼関係を築くことができる	コミュニケーション技法を用いて、対象者と信頼関係を築くことができる
DP7	医療・保健・福祉のチームにおける各専門職種の名称と役割について理解できていない	医療・保健・福祉のチームにおける各専門職種の名称と役割について理解できている	医療・保健・福祉のチームの各専門職種の専門性および役割や責任、連携について理解できている	医療・保健・福祉のチームの各専門職種の専門性および役割や責任、連携について実践レベルで理解できている	医療・保健・福祉のチームにおける各専門職種の専門性および役割を理解できている
DP8	さまざまな医療職種での連携および協働の必要性を理解できていない	さまざまな医療職種での連携および協働の必要性を理解できている	医療チームの中で他職種と有効かつ協力的にコミュニケーションをとることの意義を理解し、チームメンバーと協働して対象者への基本的な対応を考えることができる	医療チームの中で他職種と有効かつ協力的にコミュニケーションをとろうとし、行動できている	医療チームの中で他職種と有効かつ協力的にコミュニケーションをとり、専門職としての責任ある行動をとることができる
DP9	地域的・国際的動向に関心をもち、それぞれの地域や国の文化を理解しそこで生活する人々の健康問題を知ろうとする姿勢を身につけていない	地域的・国際的動向に関心をもち、それぞれの地域や国の文化を理解しそこで生活する人々の健康問題を知ろうとする姿勢を身につけている	地域的・国際的動向に関心をもち、そこに生活する人々の健康問題について検討することができる	地域的・国際的動向に関心をもち、そこに生活する人々の健康問題と看護職者の役割について検討することができる	地域的・国際的動向に関心をもち、それぞれの地域や国の文化を通して、医療・保健・福祉の課題と看護職者の役割を展望することができる
DP10	看護学を探究する基礎的な能力および主体性を身につけていない	看護学を探究する基礎的な能力および主体性を身につけている	看護学を探究する者として、自己の知識・行動・態度を客観的に評価できている	看護学を探究する者として、自己の知識・行動・態度を客観的に評価し、課題を見出すことができる	自己の知識・行動・態度の客観的な評価に基づき、課題を見出し、主体的・創造的に取り組むことができる

【結果】各学年の回答 (DP1~3)

DP1 人間の尊厳 n (%)

レベル	1年 n=123	2年 n=106	3年 n=109	4年 n=101
0	1 (0.8)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
1	50 (40.7)	9 (8.5)	4 (3.7)	0 (0)
2	42 (34.1)	51 (48.1)	33 (30.3)	2 (2.0)
3	17 (13.8)	30 (28.3)	40 (36.7)	9 (8.9)
4	13 (10.6)	16 (15.1)	32 (29.4)	90 (89.1)

DP2 豊かな人間性

0	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
1	49 (39.8)	16 (15.1)	2 (1.8)	0 (0)
2	20 (16.3)	31 (29.2)	19 (17.4)	2 (2.0)
3	40 (32.5)	42 (39.6)	68 (62.4)	27 (26.7)
4	14 (11.4)	17 (16.0)	20 (18.3)	72 (71.3)

DP3 知識と論理的思考 n (%)

レベル	1年 n=123	2年 n=106	3年 n=109	4年 n=101
0	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
1	74 (60.2)	27 (25.5)	14 (12.8)	3 (0)
2	35 (28.5)	52 (49.1)	48 (44.0)	6 (5.9)
3	10 (8.1)	18 (17.0)	37 (33.9)	43 (42.6)
4	4 (3.3)	9 (8.5)	10 (9.2)	49 (48.5)

DP4 看護実践

0	7 (5.7)	1 (0.9)	0 (0)	0 (0)
1	69 (56.1)	24 (22.6)	3 (2.8)	2 (2.0)
2	29 (23.6)	51 (48.1)	47 (43.1)	2 (2.0)
3	15 (12.2)	20 (18.9)	45 (41.3)	30 (29.7)
4	3 (2.4)	10 (9.4)	14 (12.8)	67 (66.3)

【結果】各学年の回答 (DP5~8)

DP5 看護技術	n (%)			
レベル	1年 n=123	2年 n=106	3年 n=109	4年 n=101
0	0 (0)	0 (0)	2 (1.8)	0 (0)
1	61 (49.6)	39 (36.8)	17 (15.6)	3 (3.0)
2	27 (22.0)	44 (41.5)	52 (47.7)	9 (8.9)
3	8 (6.5)	15 (14.2)	26 (23.9)	42 (41.6)
4	2 (1.6)	8 (7.5)	12 (11.0)	47 (46.5)

DP6 対象者との信頼関係	n (%)			
レベル	1年 n=123	2年 n=106	3年 n=109	4年 n=101
0	6 (4.9)	1 (0.9)	0 (0)	0 (0)
1	78 (63.4)	35 (33.0)	8 (7.3)	0 (0)
2	22 (17.9)	44 (41.5)	45 (41.3)	2 (2.0)
3	12 (9.8)	15 (14.2)	38 (34.9)	16 (15.8)
4	5 (4.1)	11 (10.4)	18 (16.5)	83 (82.2)

DP7 チームにおける専門性の理解	n (%)			
レベル	1年 n=123	2年 n=106	3年 n=109	4年 n=101
0	4 (3.3)	1 (0.9)	0 (0)	0 (0)
1	59 (48.0)	23 (21.7)	4 (3.7)	0 (0)
2	45 (36.6)	53 (50.0)	49 (45.0)	6 (5.9)
3	6 (4.9)	19 (17.9)	31 (28.4)	24 (23.8)
4	9 (7.3)	10 (9.4)	25 (22.9)	71 (70.3)

DP8 専門職としての責任	n (%)			
レベル	1年 n=123	2年 n=106	3年 n=109	4年 n=101
0	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1.0)
1	74 (60.2)	18 (17.0)	2 (1.8)	0 (0)
2	31 (25.2)	59 (55.7)	46 (42.2)	9 (8.9)
3	14 (11.4)	20 (18.9)	44 (40.4)	22 (21.8)
4	4 (3.3)	9 (8.5)	17 (15.6)	69 (68.3)

【結果】各学年の回答 (DP9~10)

DP9 国際社会における看護の役割	n (%)			
レベル	1年 n=123	2年 n=106	3年 n=109	4年 n=101
0	2 (1.6)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
1	67 (54.5)	31 (29.2)	12 (11.0)	1 (0)
2	24 (19.5)	36 (34.0)	34 (31.2)	9 (8.9)
3	23 (18.7)	29 (27.4)	45 (41.3)	33 (32.7)
4	7 (5.7)	10 (9.4)	18 (16.5)	58 (57.4)

DP10 自己研鑽	n (%)			
レベル	1年 n=123	2年 n=106	3年 n=109	4年 n=101
0	2 (1.6)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
1	55 (44.7)	20 (18.9)	2 (1.8)	2 (2.0)
2	36 (29.3)	38 (35.8)	27 (24.8)	3 (3.0)
3	16 (13.0)	32 (30.2)	60 (55.0)	24 (23.8)
4	14 (11.4)	16 (15.1)	20 (18.3)	72 (71.3)

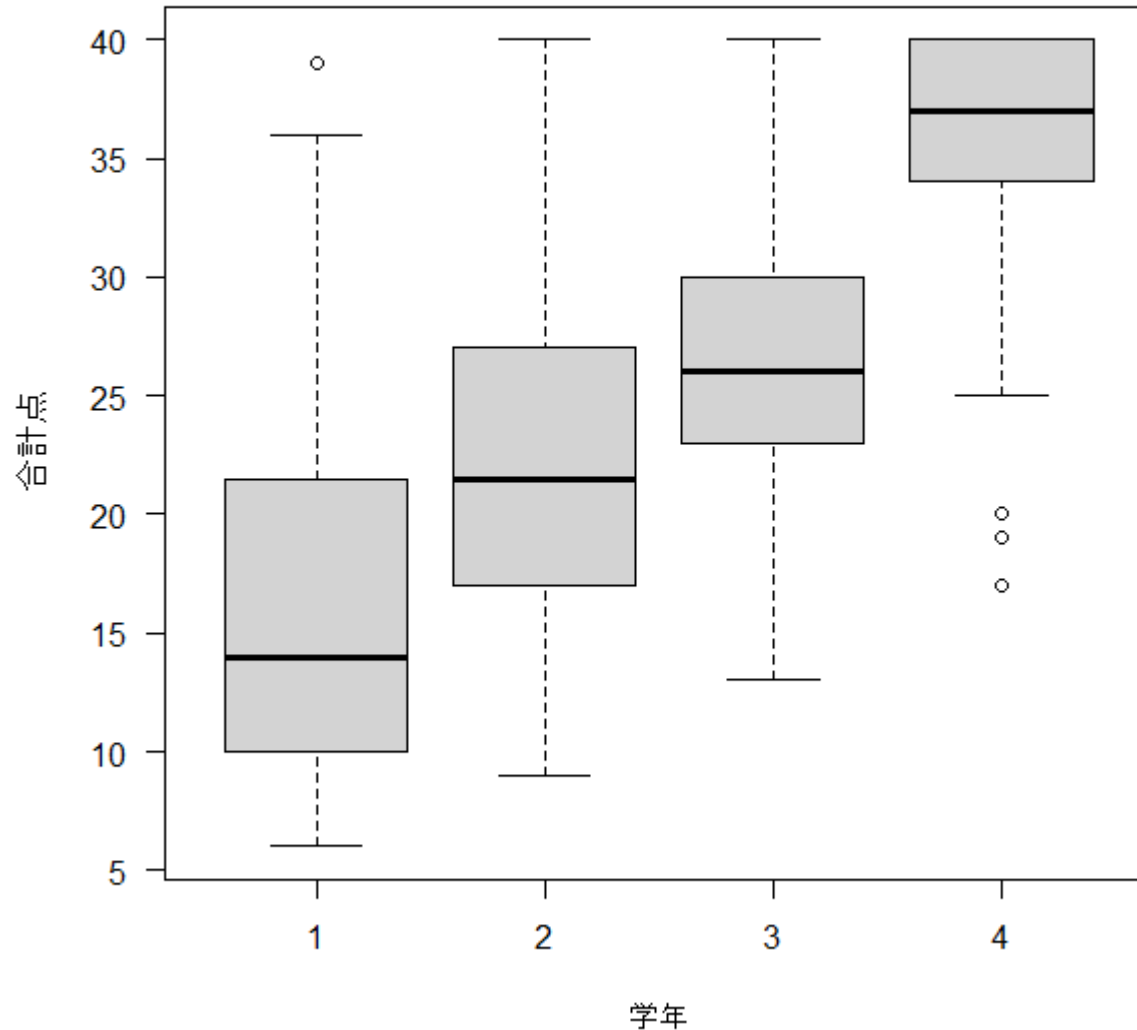
結果の概要

1. 各DPの学年ごとの最頻値は、学年を経るごとにレベルが上昇していた。
2. 4年次の学生の過半数がレベル4に到達していないDPは、「DP3 知識と論理的思考」「DP5 看護技術」であった。



1. 全DPにおいて、学年を経るごとに、段階的に学修達成度が向上している傾向がみられた。
- 2-1. 昨年度4年生の結果より、DP3は4年次後期に有意に向上する結果がみられた。よって、昨年と同様に、研究セミナー等で論理的思考の修得を意識して教育を行うことで向上すると考える。
- 2-2. DP5については、4年生に看護技術の自己練習の機会を作る等、技術修得への自信獲得に向けた方策を検討する必要がある。

各学年のDP合計点の比較



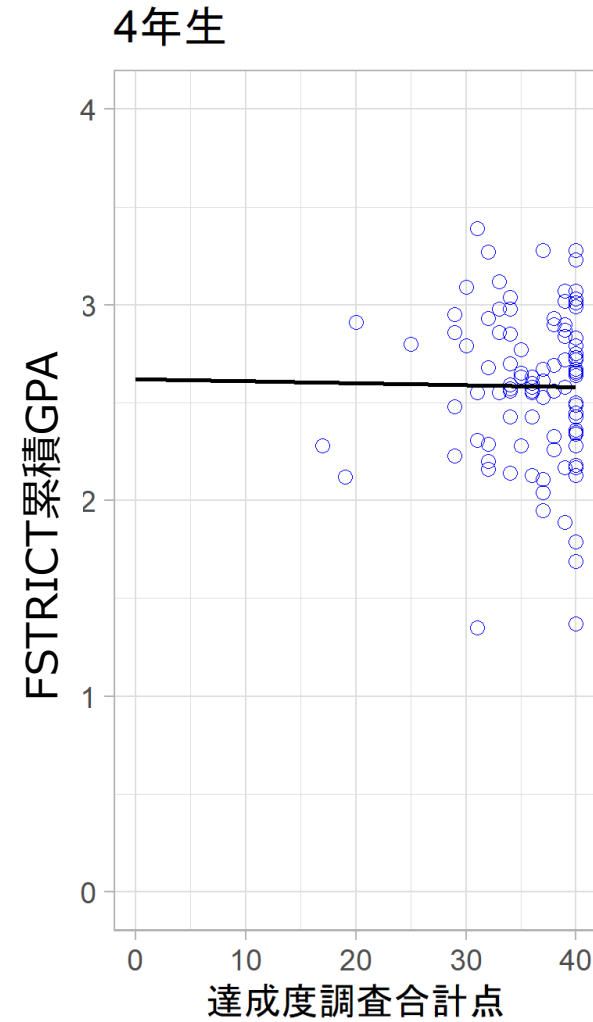
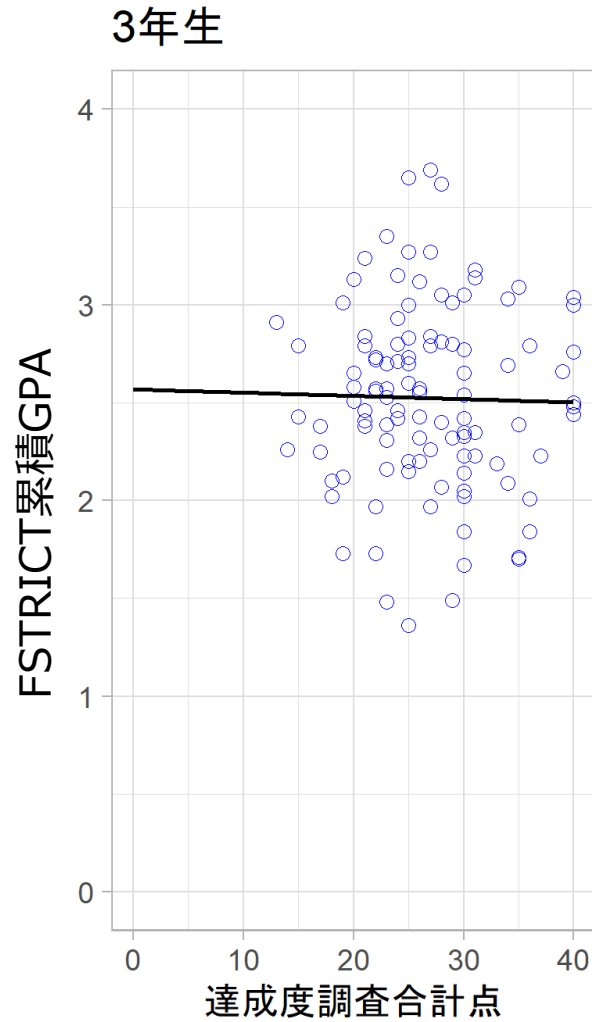
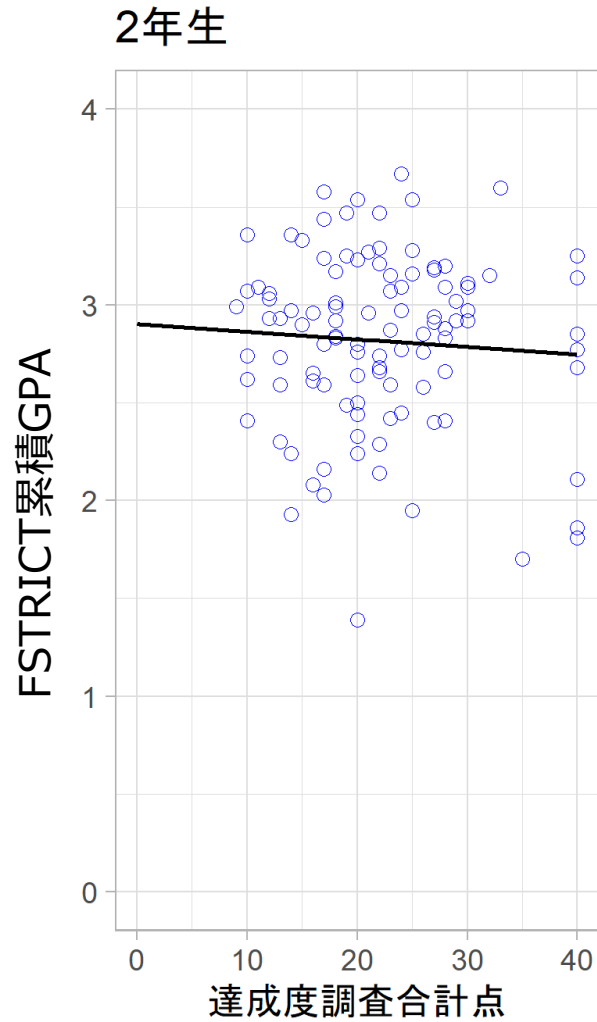
結果の概要

合計点においても、学年ごとに段階的に到達レベルが上昇していた。



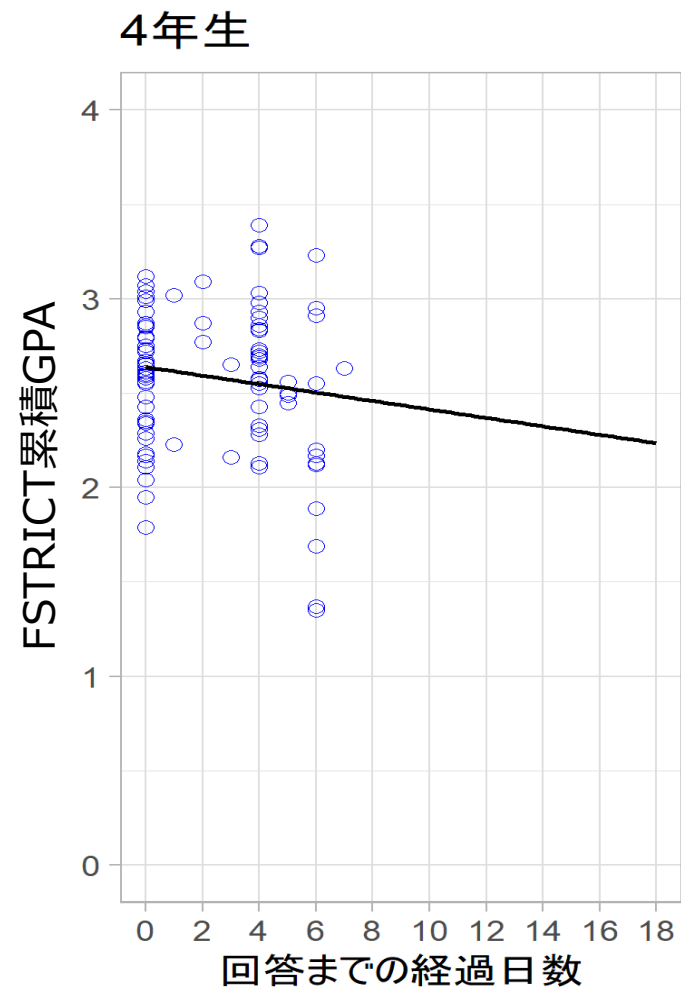
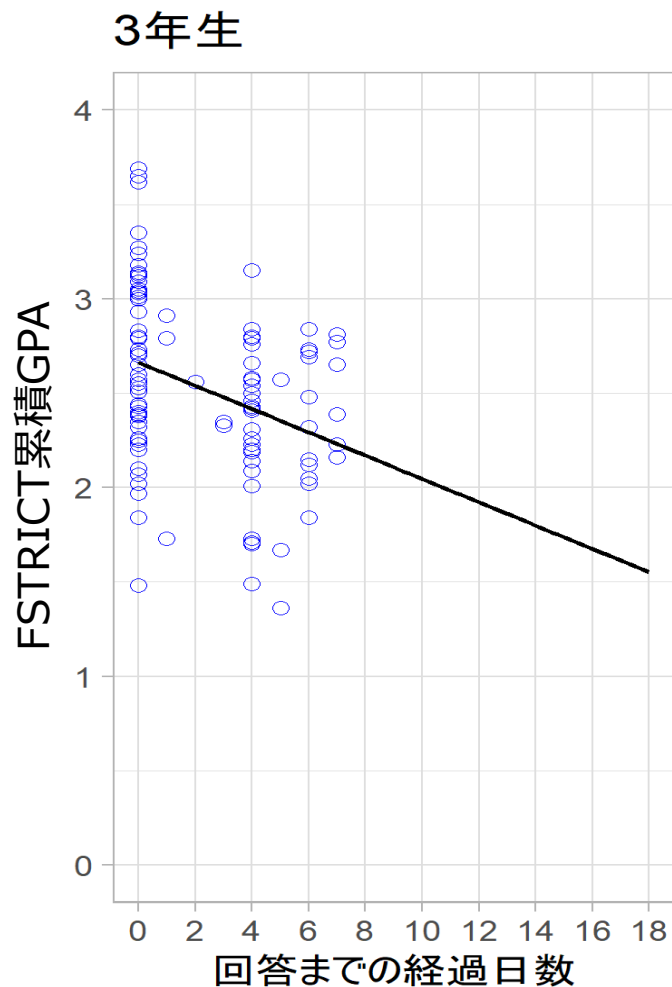
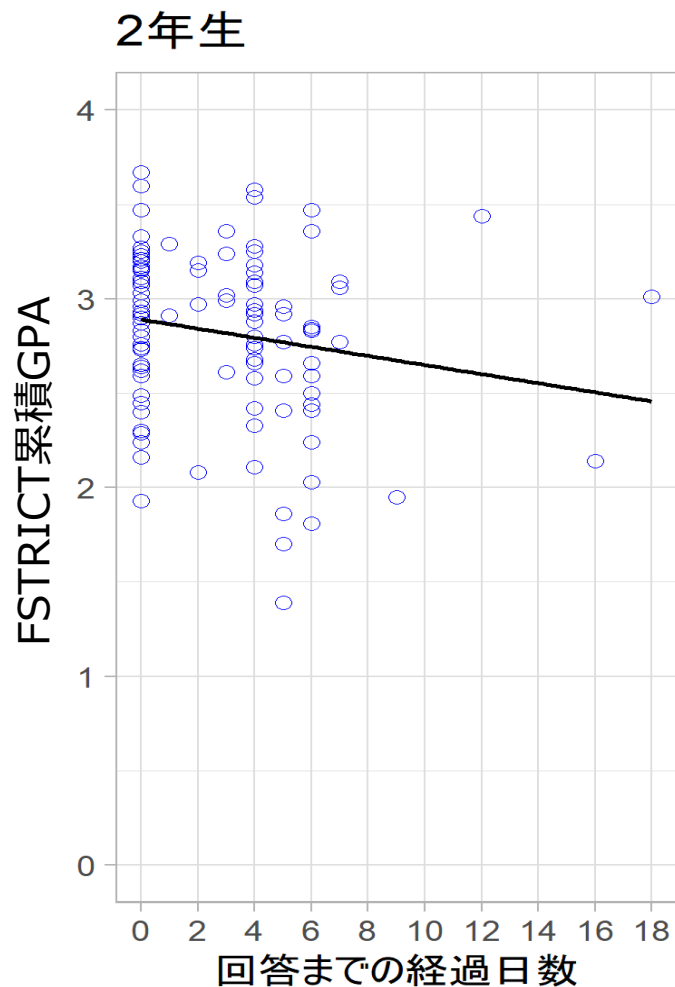
今年度よりループブックを用いて調査したことで、学修の積み上げを学生が認識できていることが明らかとなった。

DP達成度合計点と累積GPAの関連



レベル0からレベル4を
各0~4点に配点し、
各学生の合計点を
算出した。

回答までの経過日数と累積GPAの関連



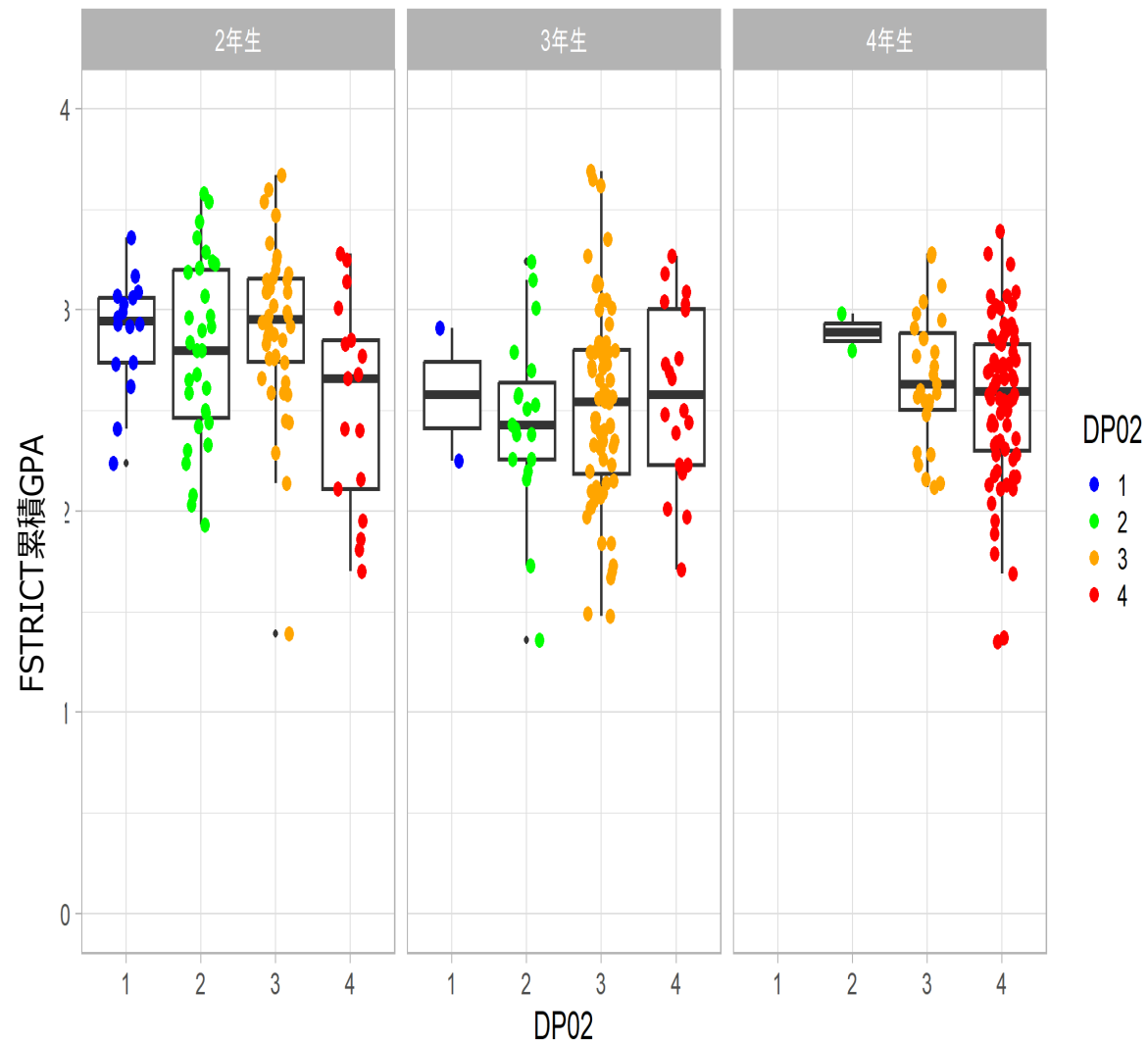
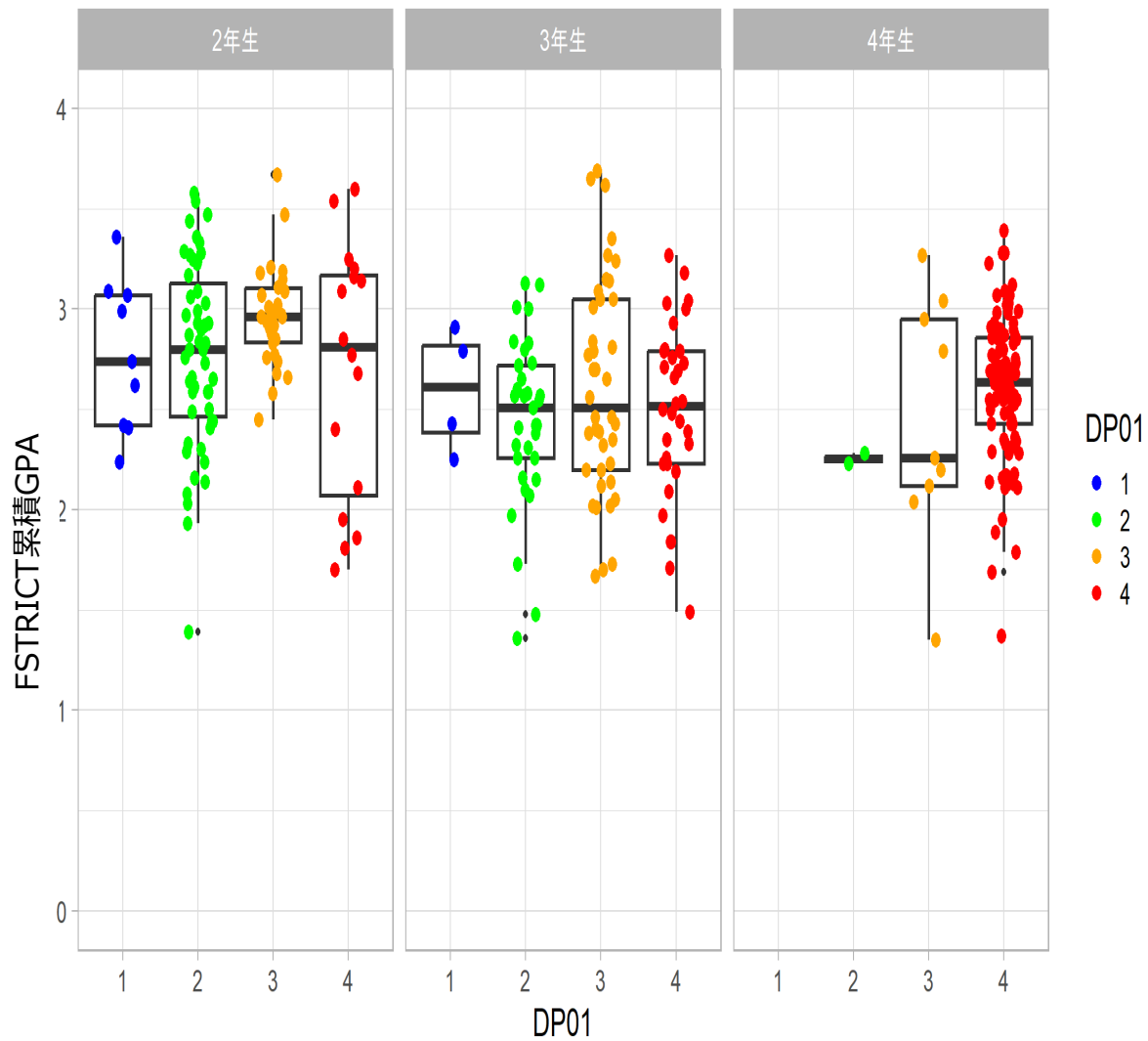
すべての学年で、回答までの日数が経過するほど、GPAが低下する傾向がみられた（3年生で顕著）。



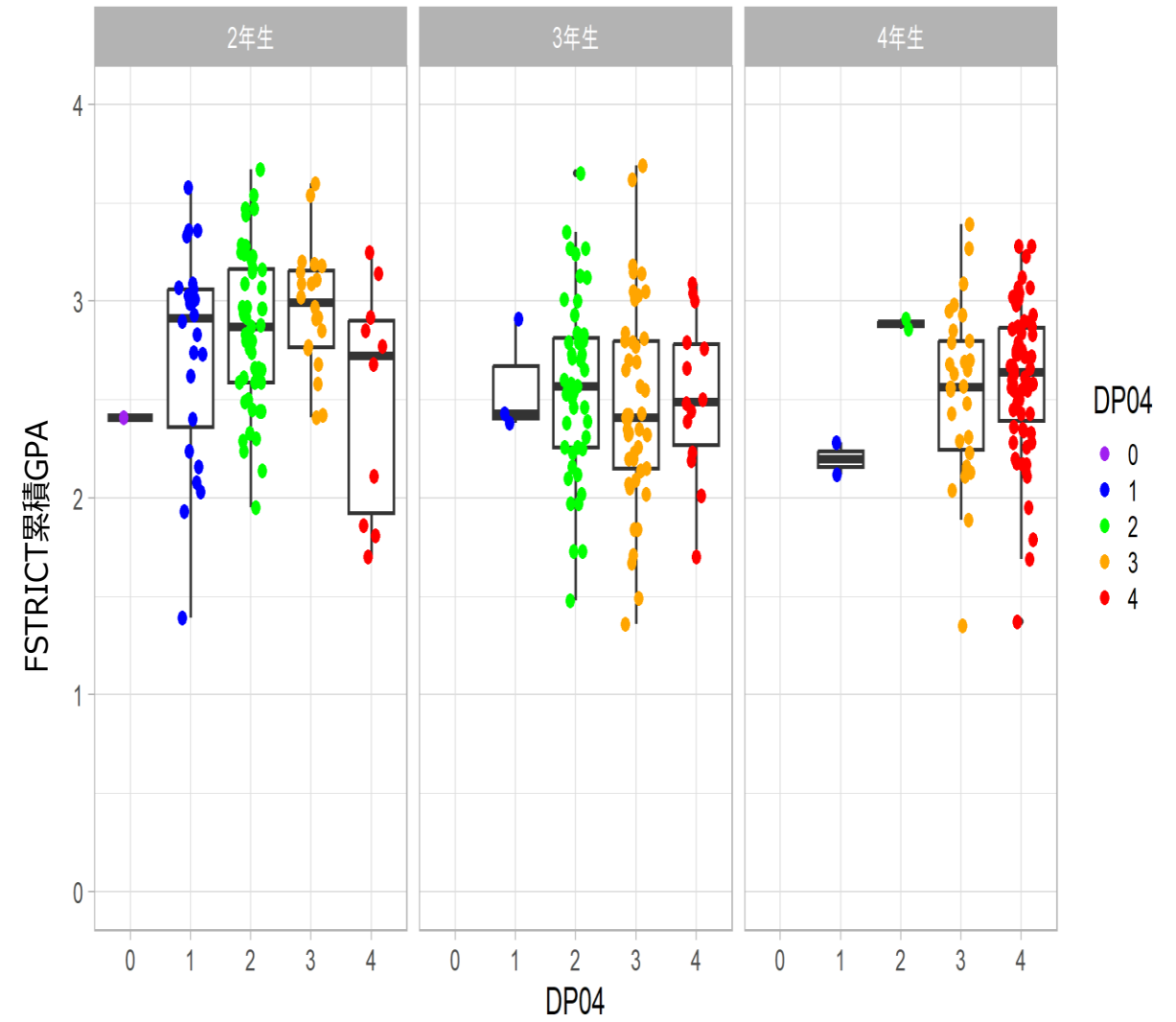
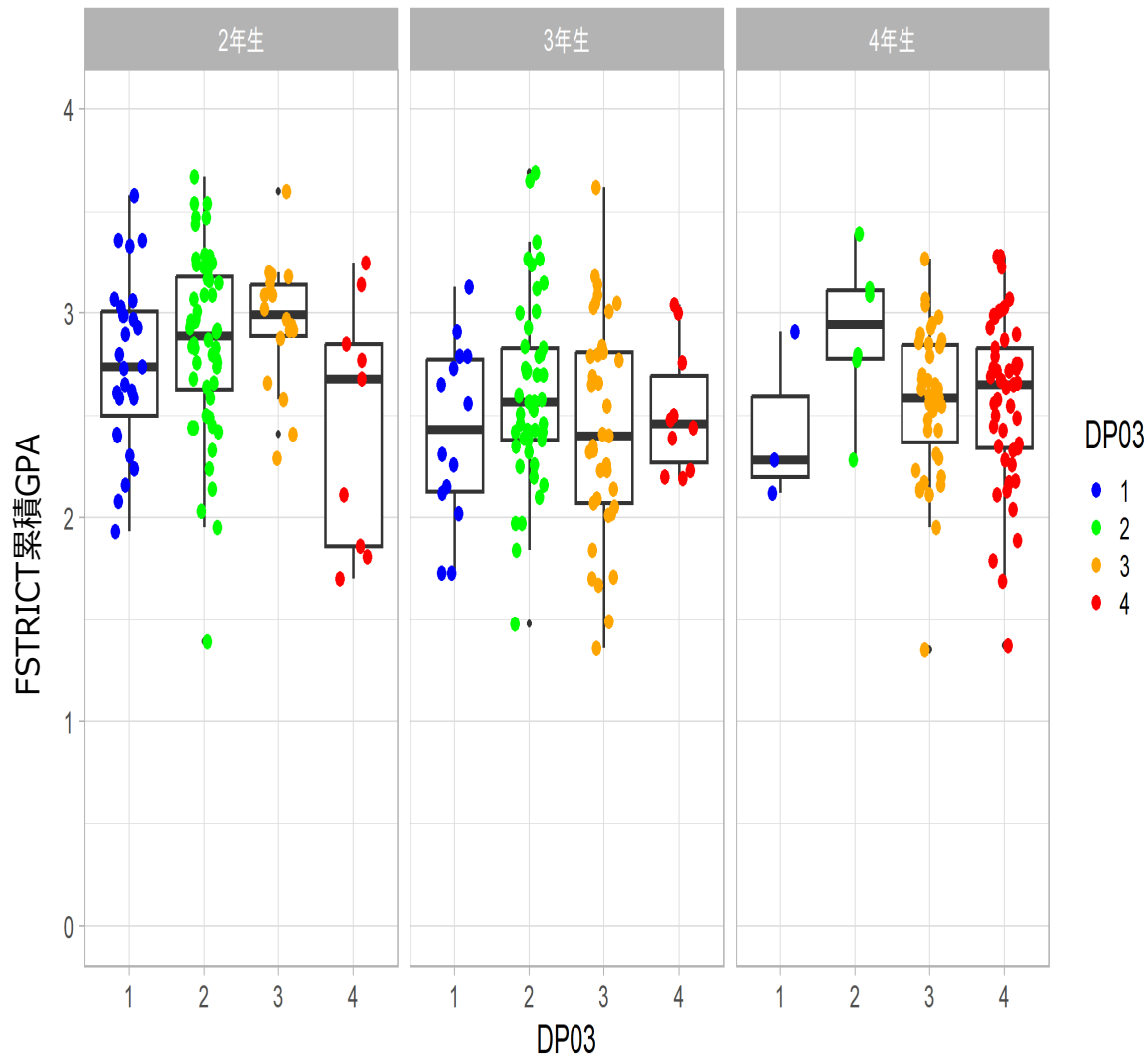
<低GPA学生の課題と対応>

3年生は臨地実習指導において、計画的行動の促しや注意喚起、リマインドなどの配慮がより必要となる可能性がある。

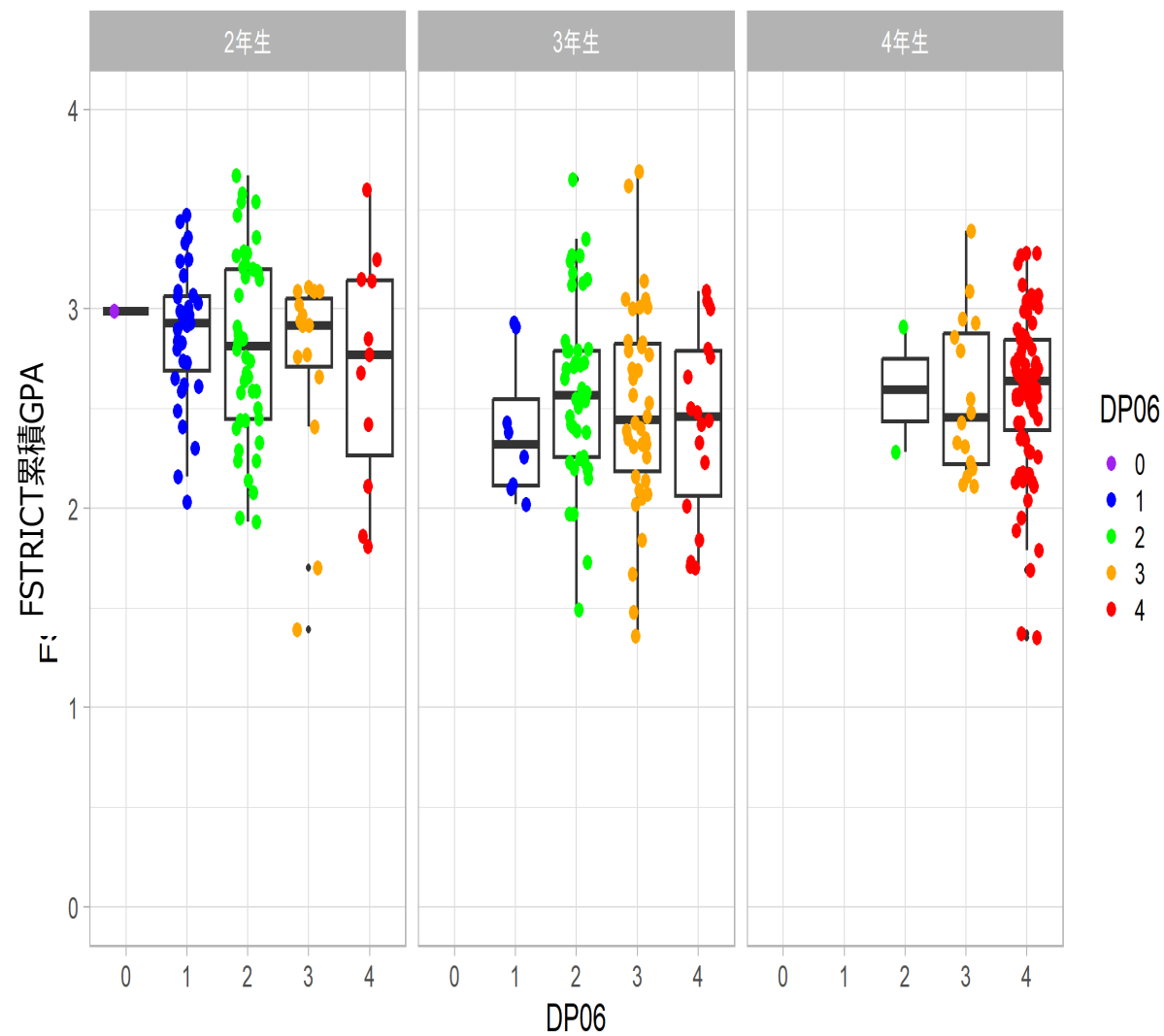
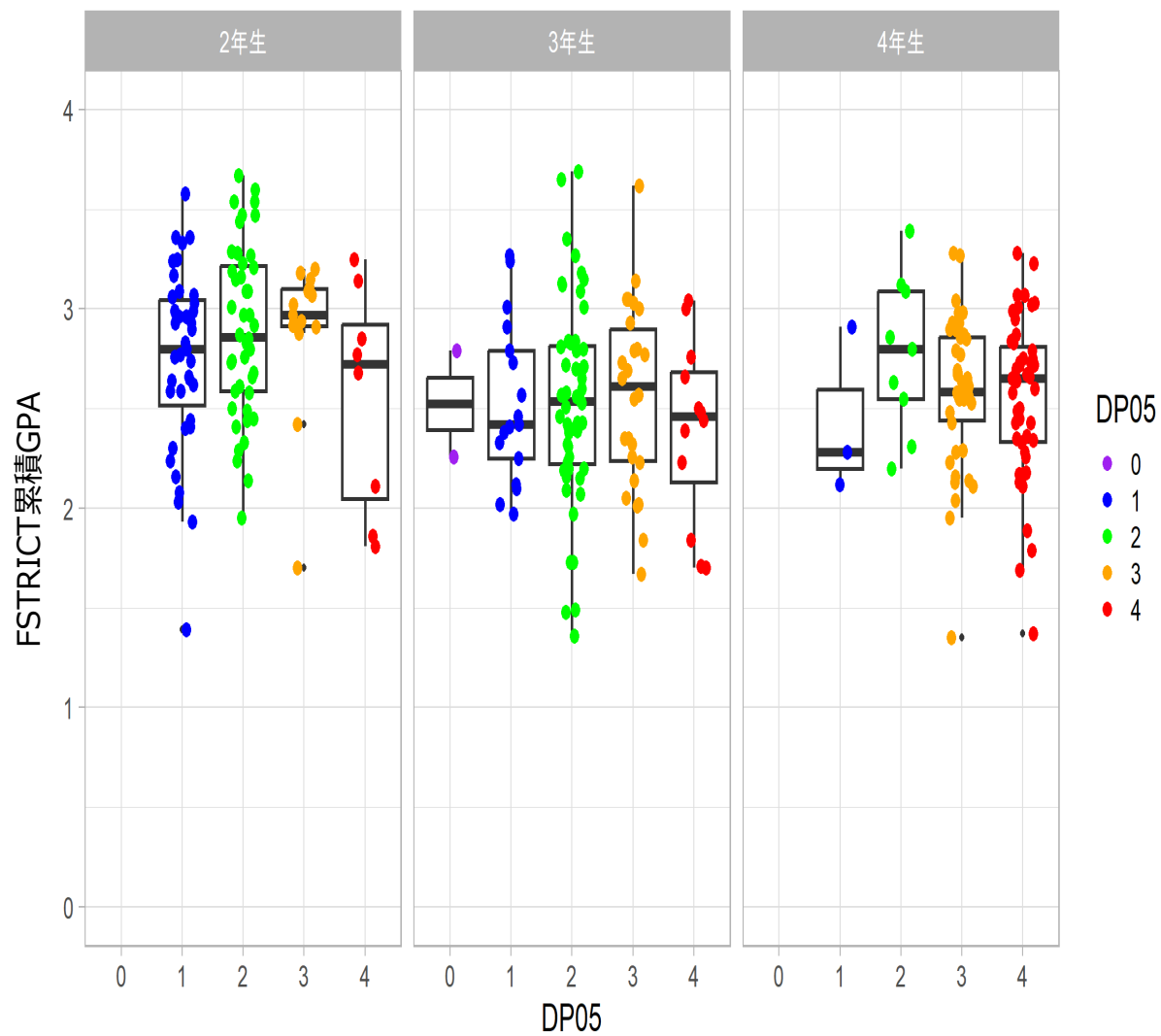
参照：修学成果到達度の各設問回答とGPAの関連（DP1, DP2）



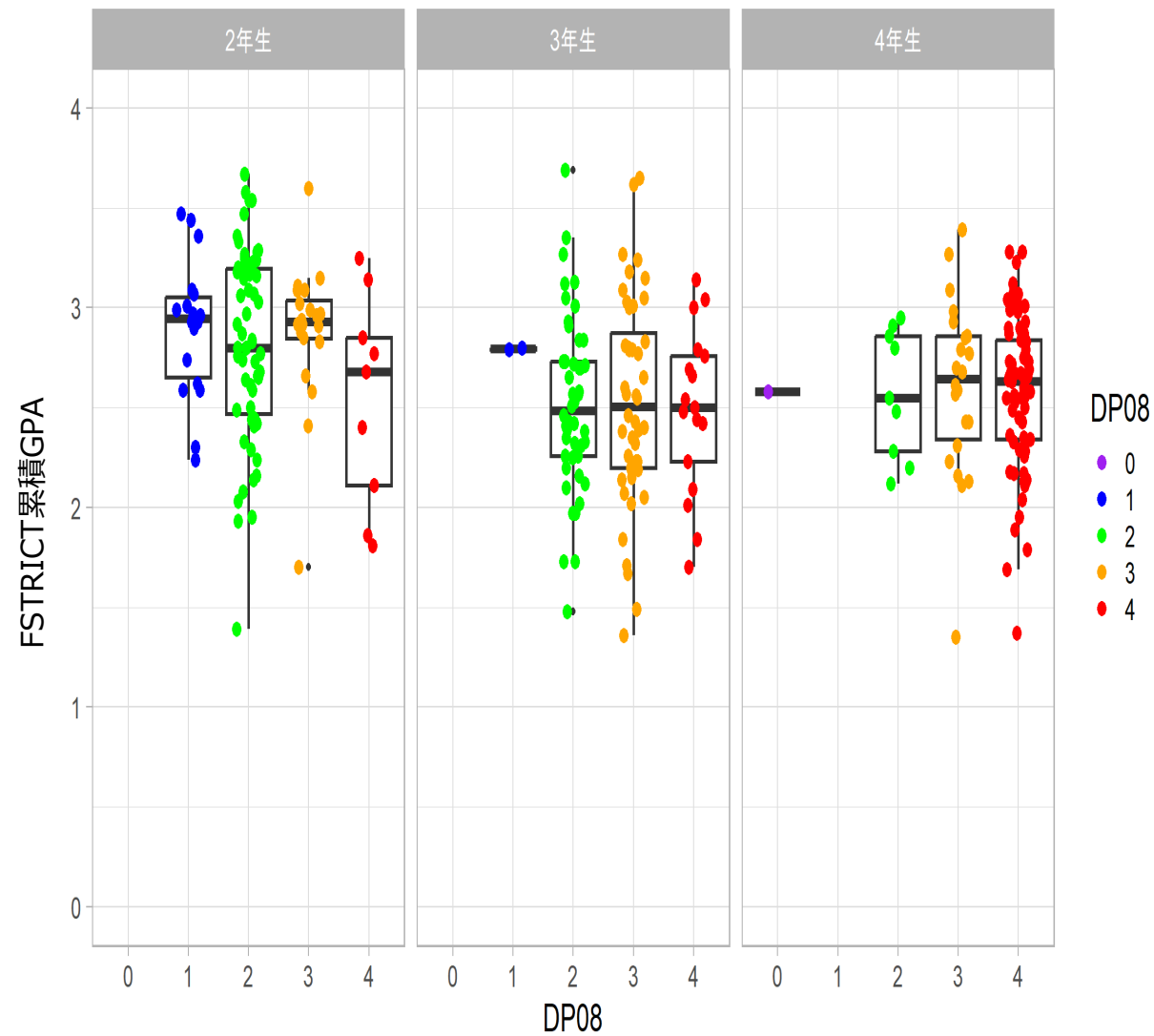
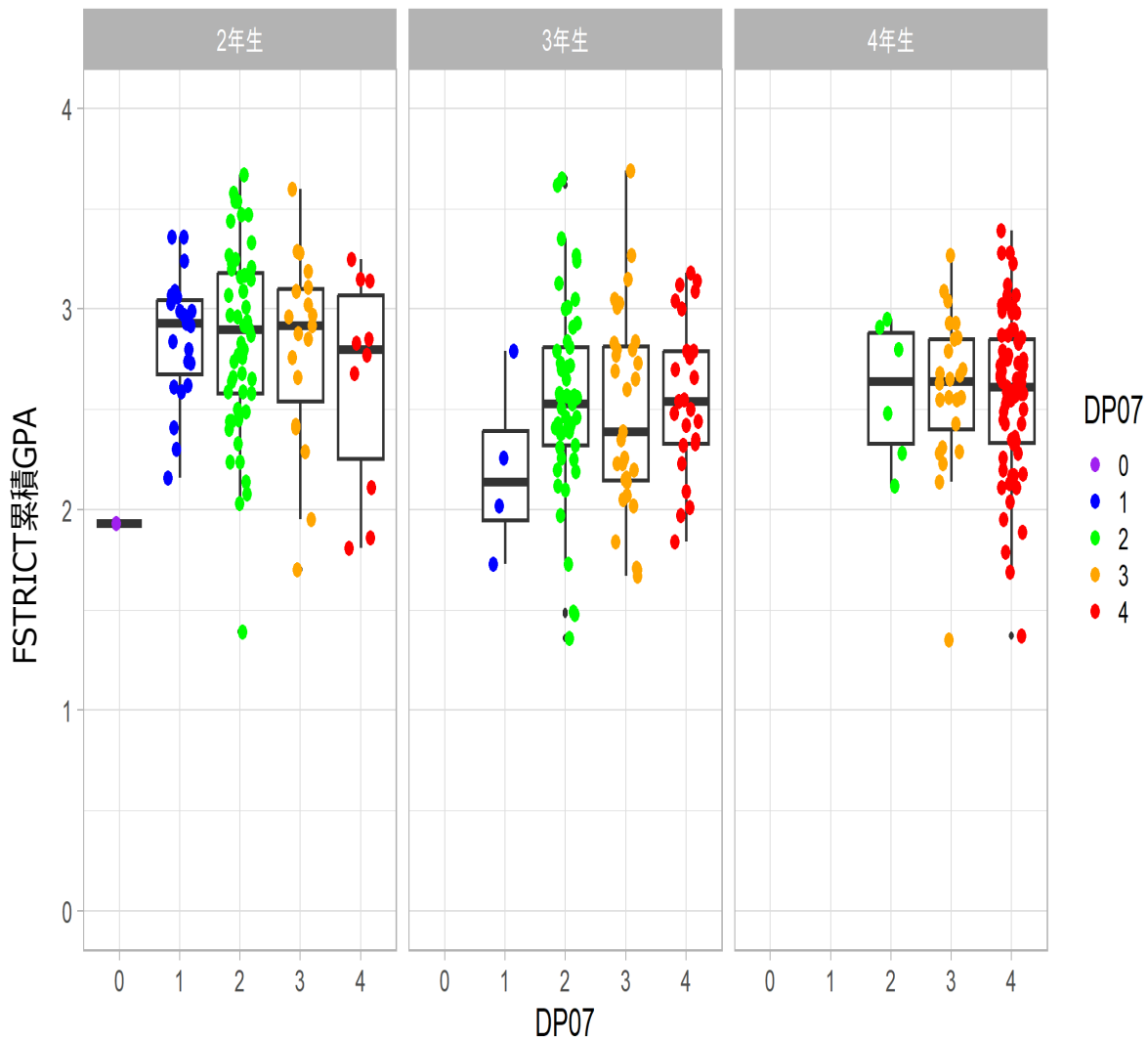
参照：修学成果到達度の各設問回答とGPAの関連（DP3, DP4）



参照：修学成果到達度の各設問回答とGPAの関連（DP5, DP6）



参照：修学成果到達度の各設問回答とGPAの関連（DP7, DP8）



参照：修学成果到達度の各設問回答とGPAの関連（DP9, DP10）

